

2 ラグビー全国大会の消費額試算

2-1 ラグビーの全国大会について

JRFU が 2013 年度に主催した全国大会は、小学生を対象とした「サントリーカップ 第 10 回全国小学生ラグビー選手権大会」から、社会人ラグビーの全国リーグである「ジャパンラグビートップリーグ」まで、年齢やレベル別に 21 大会ある（表 5）。このうち「第 68 回国民体育大会（スポーツ祭東京）ラグビー競技」は（公財）日本体育協会、文部科学省、東京都との共催で開催された。また「全国高等学校ラグビーフットボール大会」は、全国高等学校総合体育大会の一環であり、（公財）全国高等学校体育連盟と大阪府、大阪府教育委員会などと共催する大会である。

JRFU は、ラグビーワールドカップ 2019 日本開催と、2016 年夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会からの 7 人制ラグビー（男女）の競技採用を受け、国内での普及・育成・強化を図るため「JRFU 戦略計画 2010-2019」を策定した。なかでも、日本ラグビーの国際力を高める方策のひとつに 7 人制ラグビーの強化を挙げ、高校女子世代の国内大会の充実を目的に「高等学校女子 7 人制ラグビーフットボール大会」を 2011 年度から実施している。

上記 21 大会中、本研究で試算の対象としたのは、

- ・全日本高等学校ラグビーフットボール大会
- ・全国大学ラグビーフットボール選手権大会
- ・日本ラグビーフットボール選手権大会

の 3 大会である。なお「全国大学ラグビーフットボール選手権大会」と「日本ラグビーフットボール選手権大会」については、調査日程との関係で 2012 年度の大会について試算した。

表 5 日本ラグビーフットボール協会の主催大会（2013年度）

No.		年代	大会名
1	主催	ジュニア	第19回 全国ジュニア・ラグビーフットボール大会
2	主催	ジュニア	第4回全国中学生ラグビーフットボール大会
3	主催	ジュニア	第10回 全国小学生タグラグビー選手権大会
4	主催	高校	第3回全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会
5	主催	高校	第9回全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会
6	主催	高校	ジャパンセブンズ2013高校の部
7	主催	高校	第14回 全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会
8	共催	高校	第44回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会
9	共催	高校	第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会
10	主催	学生	2013年学生クラブ東西交流ラグビーフェスティバル・イン・菅平
11	主催	学生	第12回 東西学生クラブ対抗試合
12	主催	学生	第63回 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会
13	主催	学生	第50回全国大学ラグビーフットボール選手権大会
14	主催	一般	第20回全国クラブラグビーフットボール大会
15	主催	一般	第54回 YC&AC JAPAN SEVENS
16	主催	一般	ウイダー・ジャパンセブンズ2013
17	主催	一般	第51回日本ラグビーフットボール選手権大会
18	主催	一般	2013-2014ジャパンラグビートップリーグ
19	主催	一般	第26回女子ラグビー交流大会
20	主催	一般	Japan Women's Sevens 2014
21	共催	一般	第68回国民体育大会ラグビーフットボール競技

資料：JRFU ウェブサイトより作成

2-2 ケース1 全日本高等学校ラグビーフットボール大会

(1) 大会の概要

- ・名称 第93回全国高等学校ラグビーフットボール大会
- ・開催期間 2013年12月27日(金)～2014年1月7日(火)
- ・会場 近鉄花園ラグビー場(大阪府東大阪市)ほか

全日本高等学校ラグビーフットボール大会(以下、高校選手権)は毎年、近鉄花園ラグビー場で上記の時期に開催される。本大会は、全国高等学校総合体育大会の一環であり、冬季大会(4競技)のひとつとして開催される。

(2) 移動費の計算

高校選手権は、北海道と東京都が2校、大阪府が3校、他の府県は各1校が出場している。51校の出場チームについて、計算方法は以下のとおりである。

1) 出発地は県庁所在地の駅とする。沖縄県については、那覇空港とする。また、兵庫県(元町駅)、福岡県(博多駅)、鹿児島県(鹿児島中央駅)は、県庁所在市の名と出発する駅名が異なる。

2) 航空機の使用については、

- ・陸路では近鉄奈良線東花園駅まで5時間30分以上かかる
- ・空路利用の方が陸路より2時間以上早い

のいずれかを満たす場合に選択するものとする。該当するのは、北海道、青森県、秋田県、山形県、宮崎県、沖縄県の6道県である。

3) 経路にバスを含めるのは、以下の場合である。

- ・出発地が徳島県の場合、鉄道より時間短縮が見込めるため徳島駅から高速バス可
- ・出発する駅から最寄りの空港までのバス(札幌駅から新千歳空港など)
- ・伊丹空港および関西空港からの移動

他の高速路線バスは使用しないものとする。

4) 片道100kmを超える場合は、有料特急の料金を適用する。

5) 特急は新幹線を含め指定席料金を計算する。

6) 鉄道は団体割引を適用するものとし、各鉄道会社の割引率により算出する。航空機の場合、学校研修割引運賃等の団体割引の適用に該当するが、航空会社と旅行会社の間で定められた割引額は公表されない。そのため、航空機は団体割引を適用しない。

これらを条件に運賃検索サイト「ジョルダン」を使用し、1)の出発地から近鉄奈良線東花園駅までの料金を算出した。なお、運賃は研究時の2014年3月14日午後3時に競技会場へ到着するものを統一条件とし、複数の路線がある場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

移動費の1人あたりの単純平均は19,489円である(表6)。テニスについて計算した愛知県名古屋市、東京都昭島市より東花園駅(大阪府東大阪市)のほうが団体割引の適用もあり安価であった。

つぎに実際の移動費だが、ラグビーは15人制だが、登録できる競技者が23人で、これに監督、マネジャー、23人に入れなかった選手等を加えると、全国大会に出場する強豪校であれば、1チーム40人程度と想定し試算する。これに学校からの応援団、保護者が加わるのだが、本研究では計算の範囲には含めない。したがって、この大会のために移動する「出場校関係者」は、51チーム2,040人である。

仮に1チーム40人だとすると、公共交通を利用しない可能性もあるだろう。たとえば高校が大型バスを保有しているかもしれない。ここでは、すべての高校が公共交通を利用すると仮定する。移動費の計算方法は、前頁6)に準じて、鉄道運賃はJR各社および近鉄の学生団体割引を適用する。すなわち、JRは1人あたりの運賃が50%引きとなり、近鉄は1人あたりの運賃が20%引きとなる。そうすると、移動費の総額は4,000万円であった。

このほか、JRFUは本大会に53人の審判を全国から大会会場へ派遣しており、その往復にかかる移動費総額は、921,920円であった。

表 6 第 93 回全国高等学校ラグビーフットボール大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)	移動費総額(円)
北海道	札幌	90,820	80	7,265,600
青森県	青森	81,080	40	3,243,200
岩手県	盛岡	23,120	40	924,800
宮城県	仙台	16,830	40	673,200
秋田県	秋田	73,340	40	2,933,600
山形県	山形	70,500	40	2,820,000
福島県	福島	20,520	40	820,800
茨城県	水戸	17,100	40	684,000
栃木県	宇都宮	18,200	40	728,000
群馬県	前橋	18,200	40	728,000
埼玉県	大宮	16,950	40	678,000
千葉県	千葉	14,450	40	578,000
東京都	東京	14,450	80	1,156,000
神奈川県	横浜	14,130	40	565,200
新潟県	新潟	21,780	40	871,200
富山県	富山	8,370	40	334,800
石川県	金沢	7,110	40	284,400
福井県	福井	6,480	40	259,200
山梨県	甲府	14,530	40	581,200
長野県	長野	12,640	40	505,600
岐阜県	岐阜	6,460	40	258,400
静岡県	静岡	10,350	40	414,000
愛知県	名古屋	6,040	40	241,600
三重県	津	3,320	40	132,800
滋賀県	大津	1,510	40	60,400
京都府	京都	1,220	40	48,800
大阪府	大阪	580	120	69,600
兵庫県	元町	1,040	40	41,600
奈良県	奈良	624	40	24,960
和歌山県	和歌山	1,450	40	58,000
鳥取県	鳥取	7,110	40	284,400
島根県	松江	12,220	40	488,800
岡山県	岡山	6,460	40	258,400
広島県	広島	10,550	40	422,000
山口県	山口	13,290	40	531,600
徳島県	徳島	8,424	40	336,960
香川県	高松	8,140	40	325,600
愛媛県	松山	12,640	40	505,600
高知県	高知	9,610	40	384,400
福岡県	博多	15,290	40	611,600
佐賀県	佐賀	17,210	40	688,400
長崎県	長崎	16,440	40	657,600
熊本県	熊本	19,740	40	789,600
大分県	大分	15,810	40	632,400
宮崎県	宮崎	53,220	40	2,128,800
鹿児島県	鹿児島中央	22,090	40	883,600
沖縄県	那覇空港	74,540	40	2,981,600
平均/合計		19,489	2,040	40,896,320

(3) 滞在費の計算

高校選手権の日程は以下のとおりである。

開会式	12月27日(金)
1回戦	12月27日(金)、28日(土)
2回戦	12月30日(月)
3回戦	1月1日(水)
4回戦	1月3日(金)
準決勝	1月5日(日)
決勝	1月7日(火)

大会の公式ウェブサイトを見ると、1回戦は19試合、つまり38チームで、残り13チームが2回戦から登場する。ただしこの13チームについても、開会式前日から40人で花園ラグビー場周辺に滞在していると仮定する。また、宿泊のルールは、テニスの場合は「試合の前日には宿泊し、当日敗退していれば宿泊しない」だったが、試合が1日おきないし中2日なので、ルールとしては「当日敗退していれば宿泊しない」だけにした。

そうすると、1回戦は27日に8試合、28日に11試合行われている。換言すれば、27日に8チーム、28日に11チームが敗退して帰る。勝っていれば正月も花園に居残っているのだとすると、宿泊しているチーム数は、12月26日から順に51、43、32、32、16、16、8、8、4、4、2、2となり、計218である。1チームは40人と仮定しているので、人数は8,720人、1人1泊10,000円とすると、9,000万円弱の宿泊費になる。これにJRFUが派遣する53人の審判のうち、宿泊を伴う49人計103泊分の約120万円が加わる。したがって高校ラグビーは移動費とあわせて1.3億円を費消していることになる。

2-3 ケース2 全国大学ラグビーフットボール選手権大会

(1) 大会の概要

名 称 第49回 全国大学ラグビーフットボール選手権大会

開催期間 2012年11月18日(日)～2013年1月13日(日)

会 場

ユアテックスタジアム仙台(仙台市泉区)

県営熊谷ラグビー場(埼玉県熊谷市)

秩父宮ラグビー場(東京都港区)

国立霞ヶ丘競技場(東京都新宿区)

西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場(京都市右京区)

長居スタジアム(大阪市東住吉区)

近鉄花園ラグビー場(大阪府東大阪市)

レベルファイブスタジアム(福岡市博多区)

KKウィング(熊本県熊本市)

全国大学ラグビーフットボール選手権大会(以下、大学選手権)は高校選手権とは違い、約2ヵ月、毎週末に分散開催される。したがって「大学選手権の開催地」という設定がない。試合方式は、3チームによるファーストステージと、そこから勝ち上がった1チームを加えた16チームによるセカンドステージまでがグループリーグ方式で、それぞれのグループ首位4チームによる準々決勝からトーナメント方式になる。

(2) 移動費の計算

大学選手権は、全国から18チームが出場する。本大会は、試合会場により移動費が大きく変わることになるため、実際の試合のとおり計算した。すなわちたとえば、東北学院大学は熊谷ラグビー場で1試合、西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場で1試合を行っているので、それぞれについて仙台駅からの移動費を計算する(表7)。18校の出場チームについて、基本的に高校選手権の計算方法(p.19参照)と同じとし、以下に異なる項について記載する。

1) 出発地はチームの練習拠点のある都道府県庁所在地の駅とし、各競技場の最寄駅を目的地とする。たとえば、慶應義塾大学、東海大学は本部を東京都に置くが、練習拠点は神奈川県のため神奈川県のチーム、立命館大学は本部を京都府に置くが、練習拠点は滋賀県のため滋賀県のチームとなる。

2) 航空機の使用に該当するのは、岐阜県(朝日大学)のチームが熊本県で試合を行うケースと、福岡県(福岡工業大学)のチームが埼玉県で試合を行うケースである。

これらを条件に運賃検索サイトを使用し、料金を算出した。なお、運賃は研究時の2014年3月14日午後3時に各競技会場へ到着するものを統一条件とし、複数の路線

がある場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

また、高校選手権と同様に、移動人数は1チームあたり40人とし、公共交通を利用することを前提とする。なお、試合会場と同じ都道府県に練習拠点があるチームについては移動費を考慮しない。また、鉄道運賃はJR各社と私鉄および地下鉄各線の学生団体割引を適用する。すなわち、JRは1人あたりの運賃が50%引きとなり、私鉄および地下鉄の1人あたりの運賃が20%引きとなる。これに基づいて計算すると、総移動費は2,100万円になる。

表7 第49回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の試合数と移動費

No.	大学名	練習拠点 所在地	会場別試合数								試合数 合計	往復移動費 (1人あたり)	移動費 総額(円)
			宮城	埼玉	東京	京都	長居	花園	福岡	熊本			
			泉中央	熊谷	外苑前	西京極	長居	東花園	福岡空港	三里木			
1	東北学院大学	仙台市泉区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	35,294	1,411,760
2	流通経済大学	茨城県龍ヶ崎市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	25,960	1,038,400
3	筑波大学	茨城県つくば市	0	0	4	0	0	1	0	0	5	34,534	1,381,360
4	早稲田大学	東京都杉並区	0	0	2	0	1	1	0	0	4	28,996	1,159,840
5	明治大学	東京都世田谷区	1	1	1	0	0	0	0	0	3	12,464	498,560
6	帝京大学	東京都日野市	0	0	4	0	0	0	1	0	5	22,720	908,800
7	法政大学	東京都町田市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	23,830	953,200
8	日本大学	東京都稲城市	1	1	0	0	0	0	1	0	3	35,184	1,407,360
9	拓殖大学	東京都八王子市	0	0	1	0	0	1	1	0	3	37,170	1,486,800
10	慶應義塾大学	神奈川県横浜市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	16,020	640,800
11	東海大学	神奈川県平塚市	0	1	3	0	0	0	0	0	4	3,828	153,120
12	朝日大学	岐阜県瑞穂市	0	0	0	1	0	0	0	1	2	47,224	1,888,960
13	立命館大学	滋賀県草津市	0	0	1	0	1	1	0	0	3	16,602	664,080
14	天理大学	奈良県天理市	0	1	0	0	1	1	0	0	3	15,670	626,800
15	近畿大学	大阪府東大阪市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	47,386	1,895,440
16	大阪体育大学	大阪府泉南郡	0	0	0	1	0	2	0	0	3	624	24,960
17	関西学院大学	兵庫県西宮市	0	0	0	1	0	1	1	0	3	16,526	661,040
18	福岡工業大学	福岡県糟屋郡	0	1	0	0	1	0	2	1	5	113,726	4,549,040
平均/合計											29,653	21,350,320	

注：往復移動費（1人あたり）は参加した全試合の移動費の合計。

(3) 滞在費の計算

大学選手権は、ベスト 4 決定までがグループリーグ方式で、以降はトーナメントになる。ファーストステージから出場する 3 チームのうち 2 チームは 2 試合で敗退となる。ファーストステージを勝ち上がった 1 チームと、セカンドステージから出場する 15 チームは 4 グループに分かれて 3 試合ずつを消化する。それぞれのグループの首位はベスト 4 として準々決勝からのトーナメント戦に出場することになる。そのため、最低で 2 試合、最高で 7 試合の出場となるが、今大会ではファーストステージから決勝まで勝ち残るチームはなく、最高出場数は 5 試合となった。全 18 チームによる試合数の合計は 60 試合であった。

滞在費については、高校選手権と違い競技会場は同一でなく、試合日も連続しないが、試合当日に選手が集合できないリスクを減らすため、練習拠点の近隣都府県で開催される試合でも前泊することが慣例であり、各チームの試合数分の宿泊が発生する(表 8)。費用は、テニスの滞在費に倣い 1 泊 12,000 円で計算すると、滞在費の総額は 2,900 万円程度で、移動費と合わせると約 5,000 万円であった。

表 8 第 49 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会の各チームの試合数と滞在費

大学名	練習拠点 所在地	会場別試合数								試合数 合計	滞在費 総額(円)
		宮城 泉中央	埼玉 熊谷	東京 外苑前	京都 西京極	長居 長居	花園 東花園	福岡 福岡空港	熊本 三里木		
東北学院大学	仙台市泉区	0	1	0	1	0	0	0	0	2	960,000
流通経済大学	茨城県龍ヶ崎市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	1,440,000
筑波大学	茨城県つくば市	0	0	4	0	0	1	0	0	5	2,400,000
早稲田大学	東京都杉並区	0	0	2	0	1	1	0	0	4	1,920,000
明治大学	東京都世田谷区	1	1	1	0	0	0	0	0	3	1,440,000
帝京大学	東京都日野市	0	0	4	0	0	0	1	0	5	2,400,000
法政大学	東京都町田市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1,440,000
日本大学	東京都稲城市	1	1	0	0	0	0	1	0	3	1,440,000
拓殖大学	東京都八王子市	0	0	1	0	0	1	1	0	3	1,440,000
慶應義塾大学	神奈川県横浜市	0	1	1	1	0	0	0	0	3	1,440,000
東海大学	神奈川県平塚市	0	1	3	0	0	0	0	0	4	1,920,000
朝日大学	岐阜県瑞穂市	0	0	0	1	0	0	0	1	2	960,000
立命館大学	滋賀県草津市	0	0	1	0	1	1	0	0	3	1,440,000
天理大学	奈良県天理市	0	1	0	0	1	1	0	0	3	1,440,000
近畿大学	大阪府東大阪市	0	1	1	0	0	0	1	0	3	1,440,000
大阪体育大学	大阪府泉南郡	0	0	0	1	0	2	0	0	3	1,440,000
関西学院大学	兵庫県西宮市	0	0	0	1	0	1	1	0	3	1,440,000
福岡工業大学	福岡県糟屋郡	0	1	0	0	1	0	2	1	5	2,400,000
合計										60	28,800,000

2-4 ケース3 日本ラグビーフットボール選手権大会

(1) 大会の概要

- ・名称 第50回日本ラグビーフットボール選手権大会
- ・期間 2013年2月2日(土)～24日(日)
- ・会場 秩父宮ラグビー場(東京都港区)
国立霞ヶ丘競技場(東京都新宿区)
近鉄花園ラグビー場(大阪府東大阪市)

日本ラグビーフットボール選手権大会(以下、日本選手権)は、ジャパントップリーグでプレーオフに進出した4チームとワイルドカードを勝ち上がった2チーム、2部リーグ1位チーム、全国クラブ大会優勝チーム、大学選手権1・2位チームで争われる。試合方式は、出場10チームによるトーナメント方式で、トップリーグ優勝・準優勝チームは準決勝から登場する。

(2) 移動費の計算

日本選手権は、大会期間中の毎週末に開催される。したがって、出場チームが大会期間中会場近辺に滞在し続けるということがない。試合ごとに拠点から移動するものとする。出場10チームについて、基本的に高校選手権の計算方法(p.19参照)と同じとし、以下に異なる項について記載する。

2) 航空機の使用に該当するのは、福岡県(コカ・コーラウエストレッドスパークス)のみである。

6) 鉄道は団体割引を適用するものとする。

これらを条件に運賃検索サイトを使用し、料金を算出した。

また、高校選手権・大学選手権と同様に、移動人数は1チームあたり40人とする。なお、出場チームのうち拠点が都内にある3チーム(東芝ブレイブルーパス、サントリーサンゴリアス、帝京大学)は東京都の競技会場までは移動費がかからないとする。花園ラグビー場で開催される場合は、兵庫県に拠点のある2チーム(六甲ファイティングブル、神戸製鋼コベルコスティーラーズ)について同様に移動費を考慮しない。また、鉄道運賃はJR各社と私鉄および地下鉄各線の普通団体割引を適用する。すなわち、JRは1人あたりの運賃が15%引きとなり、私鉄および地下鉄の1人あたりの運賃が10%引きとなる。これに基づいて計算すると、移動費の合計は約1,000万円である(表9)。

表 9 第 50 回日本ラグビーフットボール選手権大会の試合数と移動費

No.	チーム名	練習拠点 所在地	会場別試合数		試合数 合計	往復移動費 (1人あたり)	移動費総額(円)
			花園	国立/ 秩父宮			
1	パナソニックワイルドナイツ	群馬県太田市	1	2	3	47,963	1,918,520
2	筑波大学	茨城県つくば市	0	1	1	7,176	287,040
3	東芝ブレイブルーパス	東京都府中市	1	0	1	24,335	973,400
4	サントリーサンゴリアス	東京都府中市	0	2	2	0	0
5	帝京大学	東京都日野市	0	2	2	0	0
6	ヤマハ発動機ジュビロ	静岡県磐田市	1	0	1	18,436	737,440
7	トヨタ自動車ヴェルブリッツ	愛知県豊田市	1	0	1	11,296	451,840
8	六甲ファイティングブル	兵庫県芦屋市	0	1	1	25,057	1,002,280
9	神戸製鋼コベルコスティーラーズ	兵庫県神戸市	2	2	4	50,114	2,004,560
10	コカ・コーラウエストレッドスパークス	福岡市東区	0	2	2	76,464	3,058,560
平均/合計						32,605	10,433,640

注：往復移動費（1人あたり）は参加した全試合の移動費の合計。

(3) 滞在費の計算

日本選手権は、東京都 2 会場、大阪府 1 会場でトーナメント戦が行われる。1 回戦は 4 試合 (8 チーム)、2 回戦は 2 試合 (4 チーム)、準決勝からシード 2 チームが出場するため 2 試合 (4 チーム)、決勝 (2 チーム) となり、1 チームあたり最高で 4 試合に出場する。全 10 チームによる試合数の合計は 18 試合であった。

滞在費については、大学選手権と同様に、練習拠点の近隣都府で開催される試合の場合でも、選手の集合リスクを考慮して前泊を前提とするため、各チームの試合数分の宿泊が伴う (表 10)。費用は、これまで同様に 1 泊 12,000 円で計算すると、滞在費の総額は 864 万円で、移動費と合わせると約 1,800 万円であった。

表 10 第 50 回日本ラグビーフットボール選手権大会の各チームの試合数と滞在費

No.	チーム名	練習拠点 所在地	会場別試合数		試合数 合計	滞在費総額(円)
			花園	国立/ 秩父宮		
1	パナソニックワイルドナイツ	群馬県太田市	1	2	3	1,440,000
2	筑波大学	茨城県つくば市	0	1	1	480,000
3	東芝ブレイブルーパス	東京都府中市	1	0	1	480,000
4	サントリーサンゴリアス	東京都府中市	0	2	2	960,000
5	帝京大学	東京都日野市	0	2	2	960,000
6	ヤマハ発動機ジュビロ	静岡県磐田市	1	0	1	480,000
7	トヨタ自動車ヴェルブリッツ	愛知県豊田市	1	0	1	480,000
8	六甲ファイティングブル	兵庫県芦屋市	0	1	1	480,000
9	神戸製鋼コベルコスティーラーズ	兵庫県神戸市	2	2	4	1,920,000
10	コカ・コーラウエストレッドスパークス	福岡市東区	0	2	2	960,000
合計					18	8,640,000